豊福の歴史

学校(豊福)から旧道を通って、竹崎へ南下しながら(薩摩街道)　～ 松橋町史などから ～

豊福小の運動場の東側に道をはさんで「**豊福神社**」がある。豊福小の校歌は、「あしたに仰ぐ宮の森」という歌い出しから始まる。「朝に豊福神社の森をながめ、夕方には豊福城をのぞむ」と、古い歴史があることをたたえながら歌っていくのが、豊福小の校歌である。

「**豊福神社**」は、後冷泉天皇の永承２年(1047 年)、関白藤原道隆の創建という由緒を誇る。社殿の彫刻が見事で、境内には「さざれ石」と推定樹齢千百年の神木である楠の巨木がある。創建時には、八幡宮のみであった。後日の鎌倉時代の頃、阿蘇氏の勢力がこの地方に伸びたとき、その支配下で阿蘇・甲佐の２社が合祀されている。すなわち、三宮と呼ぶのはそのためである。

「**豊福神社**」より右へ入ったところにある豊福保育園内に「**誠光寺**」がある。島津氏の参勤交代時の御茶屋跡にあたり、「**誠光寺**」の山門は、島津氏からその待遇に対する謝礼のため、寄進されたものと伝えられている。ただし、近代に至って、付近の火事のおり類焼は免れたものの、柱の一部に焼け跡を残しているという。

また、現在の「豊福郵便局」は、昔の「三角屋」という茶屋跡だそうである。

豊福郵便局を過ぎて、南に下って、浅川橋を渡る。道なりに左に曲がり左手の国道３号と合流する。その先に「**六里木跡**」がある。左手に地蔵堂と、ガードレールに隠れるようにして「**六里木跡**」の石標がある。左に見る地蔵は、かつてここで交通事故死でもあったのだろうか。その右下に隠れるように「**六里木跡**」の小さな碑が見える。インターネットの「Map Fan」で「熊本城」の本丸から竹崎の「**六里木跡**」まで、ルート検索したら、約２３ｋｍ(旧街道のルートではない)の距離であった。約４ｋｍ(１里)×６(里木)＝約２４ｋｍとほぼ一致するので、案外正確であると思った。

さらに３号線を南に進むと、左手に「竹崎」バス停があり、料亭「ながよし」の駐車場入り口にに祠(ほこら)がある。「**竹崎の六地蔵塔**」である。

六地蔵は、衆生(しゅじょう)の苦悩を救済する地蔵菩薩(じぞうぼさつ)のことで、日本では平安中期以来、六地蔵の信仰が盛んになり、岩手県の中尊寺、茨城県の六地蔵寺、新潟県の光照寺、京都府の大善寺など各地に六地蔵が安置された。六地蔵には、寺院・路傍・墓地などに祀(まつ)られた六体の地蔵や、あるいは地蔵堂に祀られたもの、６か所の寺院や堂に安置されるもの、また、各所の地蔵尊のうちから６か所を選んだものなどがある。また石灯籠(いしどうろう)などに６種の地蔵を刻んだ場合などもある。

「**竹崎の六地蔵塔**」は高さ約２．２ｍ。下から基台・竿石(六角柱)・蓮花座・塔体(六角形の短柱)・笠石・宝珠からなっている。このうち基台は塔の倒壊を防ぐためコンクリートで固められている。塔体には各面一帯の地蔵尊６体を浮き彫りにしており、笠石の北面には３行に分けた刻銘が見られる。右の行には「現世安穏・後生善処・敬白気迫」、左の行には「寔文明十二天庚子八月・檀那白□(□は欠落して判読不明)」と刻まれている。

文明１２年(1480 年)は、室町時代に突入していた頃である。したがって、人心はすさんでこの時代特有の下克上の時代であった。このようなことから末世的無常感を抱いた人々の間に、急速に六地蔵信仰が普及したのであった。この塔の建立者はたぶん「江上寺」か「了徳寺」の住職であったと思われる。

３号線沿い「マンション小花」入り口付近
左手前の小さいのが「六里木跡」の碑

竹崎バス停横の「竹崎の六地蔵塔」